

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	医療系シミュレーション教育の教育プログラムの開発と実証講座の実施		
法人名	学校法人吉田学園		
学校名	専門学校北海道保健看護大学校		
代表者	理事長 吉田 松雄	担当者 連絡先	理事長秘書室 室長 菊池 徳雄 011-272-6070

1. 事業の概要

吉田学園が設置した道内で唯一の施設である医療シミュレーションセンターを、これからの看護師養成や新任・現任研修、再就職者の再教育等の教育活動に有効利用するため、必要なシミュレーション教育プログラムを開発するとともに、プログラム開発過程において必要と思われる共通項目については、事前教育やシミュレーションシーンで利用できる教材を開発した。
そして、開発したシミュレーション教育プログラムおよび教材を活用した実証講座を実施した。

また、国内および海外の医療系シミュレーション教育の現状、課題に焦点を定めた調査を実施し、さらに、医療系シミュレーション教育を教育事業として効果的に展開する上で必要となる「事業化プラン」について研究を行い、調査研究報告書としてまとめた。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

■開発①&開発②

現状の厚生労働省が提示している看護師養成カリキュラムの中で、医療系シミュレーションセンターの機能を有効利用し、効果的な教育が可能な部分について、変更および追加の観点で教育プログラム開発①を行った。また、看護師の新任・現任教育や、有資格者の再教育については、調査分科会の調査状況を参考にしながら、現状病院や看護師協会等で現状行われている当該教育カリキュラムへの変更および追加として教育プログラム開発②を行った。内容については、参考資料等を付加して別途報告書にまとめた。開発は、開発分科会メンバーの協力を得ながら、受託校の三上先生が中心になって実施した。開発①については、早速次年度のカリキュラムで採用できるものとなり、開発②については、実験的に実施できる段階まで到達できた。

■開発③

獨協医科大学・池上教授、北海道大学病院・早川先生、市立札幌高等看護学院・大科先生、中村記念病院・久松先生、市立札幌病院救命救急センター・小川先生、有限会社Ariesの協力を得て、実践的に使える教材「患者急変対応～ハンドブック(CD&冊子)」を作成できた。特に事前および事後学習や、シミュレーショントレーニングの最中にも十分に効果を出せるように、動画および音声を用いたマルチメディア教材としてのCDや、いつも手元に置いて参照できるように小型版のハンドブック形式にまとめた。早速、次年度からの教育に利用できるものとなった。

■調査研究

大阪大学大学院・金井教授、大阪経済大学・吉野専任講師、明星大学・新藤准教授、日本福祉大学・秋庭准教授、広島市立大学・金准教授の協力を得て、内容の充実した調査研究を報告書としてまとめることができた。調査では、日本国内でも最近医療系シミュレーターが教育に使われ始めていることがわかったが、効果的な教育展開には、優秀なインストラクターの存在が重要であることが理解できた。研究では、医療系シミュレーターを活用した新任・現任教育、離職者の再教育の事業化が検討され、医療系専門学校の新しい教育事業の方向性が確認できた。この調査研究により、今後の医療系シミュレーション教育のあり方が十分把握できた。

②事業により得られた成果

以下の冊子およびCDに本事業で得られたすべての知見をまとめた。

- 患者急変対応～ハンドブック(CD&冊子)2000セット
- 医療系シミュレーション教育プログラム&実証講座報告30部
- 調査研究報告書300部

③今後の活用

専門学校北海道保健看護大学校を中心に、吉田学園が設置する医療・福祉系専門学校において、開発した教育プログラム①と教材「急変対応～ハンドブック(CD&冊子)」は早速次年度からの授業に利用する予定である。また、本プロジェクトに協力の関係専門学校でも来年度の授業から活用予定と聞いている。開発プログラム②については、近隣の病院等と連携を取りながら、実験的な実施を計画したい。その状況を見ながら、研究報告で示された新任・現任教育の事業化も継続して検討する予定である。教材等については、専門学校団体の研究会を通じて、今後も希望校には提供していく予定である。

④次年度以降における課題・展開

医療系シミュレーション教育の有効性が確認でき、その事前・事後学習用CDおよびシミュレーション実習中におけるハンドブックが出来上がったことから、今までの教育にシミュレーション教育を取り入れていく第1ステップに入ることができた。

調査で指摘されたインストラクターの重要性は、本事業の実証講座でも担当教員が実感した事項である。

今後は、医療系シミュレーション教育を実施するための優秀なインストラクターを育成プログラムの開発が急がれるとともに、シミュレーション教育がカバーする範囲の拡大が望まれる。

このような課題の解決には、医学と工学のコラボレーションによるシミュレーターの高度化、シミュレーション教育の法的な位置づけ等、教育現場以外での努力に負うところが多い。

3. 事業の実施に関する項目

①開発

「医療系学科で学ぶ学生用プログラム」「有資格者の新任、現任研修および再教育プログラム」を開発し、「医療系シミュレーション教育プログラム&実証講座報告」にまとめた。

臨場感が出るように動画を多用し、教育プログラムで利用する教材「患者急変対応～ハンドブック(CD&冊子)」を開発した。

②調査研究

【調査】医療関係者へのヒアリングを出発点として国内そして海外のシミュレーション教育の現状、課題に焦点を絞って現状調査を行い、専門学校におけるシミュレーション教育の今後について考察し、報告書にまとめた。

【研究】事業コンセプトを明確に定義し、産業分析と付加価値構造を検討し、市場分析を行って、展開計画を提示し、想定されるリスクと課題を明らかにして、シミュレーション教育の事業化について報告書にまとめた。

③実証講座

日時:平成21年2月18日(水)18:00~20:30

場所:吉田学園医療歯科専門学校 10F シミュレーションセンター

対象:吉田学園保健看護大学校 看護学科 3年生(7名)

講師:吉田学園医療歯科専門学校教員(三上剛人・中野香・石川孝司・工藤元嗣)

- ① DVD視聴による事前学習
- ② 2グループに分かれてのスキルトレーニング
- ③ 二人一組で個別シミュレーショントレーニングを実施した。

実施結果はアンケートを行い、「医療系シミュレーション教育プログラム&実証講座報告」にまとめた。

④その他

医療行為を動画撮影し、それを教育活動に利用することは、非常に大きな効果が得られるが、一般的に患者のプライバシー保護の観点や、特に救急・急変に関しては準備して行えるような状況ではないことから、大きな困難性を感じた。今回の動画教材の開発においては、患者モデルの演技を、プロのカメラマンが撮影することで行ったが、本来は医療処置とそれを第3者が観察できるような施設設備を利用したかった。